

部の概要

情報技術部では、放影研の全ての研究者およびその他の職員のニーズを満たすための IT インフラストラクチャと様々なアプリケーションサービスを提供することによって、研究および関連業務の効率化を促進している。また、所内に多く保存される電子的機微情報の保護にも注力する。

情報技術部は 2 つの課で構成されている。システム技術課では、所内のネットワークシステムおよび情報システムの導入のための企画立案と導入構築、さらにはそれらのハードウェア保守管理業務を担っている（所員が利用する PC も含まれる）。また、研究所が保有する多様な電子データのデータベース化と、これらを利活用するためのアプリケーションの開発も行っている。このような情報資産を保護するための情報セキュリティ対策として、ネットワーク、サーバ、PC の保護および個人情報保護法に基づく調査対象者情報の個人情報保護にも力を注いでいる。

図書資料課では図書室業務（蔵書管理、利用者サポート）、放影研学術情報（研究計画書、論文、学会発表資料）および ABCC 時代から引き継がれた歴史資料の管理に関する業務を担当する。

部は部長事務取扱、次長、庶務係 1 名を含む 14 名のスタッフから構成されている。システム技術課には 9 名、図書資料課は 2 名のスタッフが所属する。情報技術部は、外部研究機関との積極的な共同研究を行うためのデータ共有活用プラットフォームの構築に備え、所内の研究資料を統合するための準備を進めている。また、所内の研究資料の統合に加え、内外での共同研究を促進するために研究資源センター（Research Resource Center）を設立するという新しい取り組みに対して、特に技術面において積極的なサポートを行っている。

2019 年度業績

1. 情報技術部幹部職員による定例会議

隔週で所内情報系インフラストラクチャの更新計画や、研究資源センター (Research Resource Center) の設立準備に関する議論を行った。具体的には、今後研究所に求められるべき新しいインフラストラクチャやその上で提供可能なアプリケーションサービス等について議論が行われた。

2. 職員の育成

情報技術部では、今後を見据えたインフラストラクチャの更改と保有する研究データを利活用するアプリケーションの最新化のために、各種研修に参加している。研修に参加することによって、スタッフは最新の技術を学ぶことができる。

3. サーバスイッチの交換

基幹スイッチの構成の一部であるサーバスイッチを老朽化のため交換を行った。

4. 長崎ネットワークスイッチ及びエッジスイッチの交換

長崎研究所サーバ室のネットワークスイッチ及び長崎研究所の各階に設置しているエッジスイッチを老朽化のため交換を行った。

5. 長崎 UPS バッテリー

長崎研究所サーバ室の UPS (無停電電源装置) において劣化にともなうバッテリーの予防交換を行った。

6. ホストサーバの更新

疫学部腫瘍登録システムで使用するデータベース用仮想ホストサーバ 2 台を旧式のため定期交換を行った。

7. ストレージの更新

旧式となった仮想用ストレージについて広島 2 台、長崎 1 台の交換を行った。今回使用可能容量を 20-25TB まで増やしたことで、これまで複数のストレージに保管されていた情報を統合し、ストレージの台数を減らすことが期待できる。ストレージの台数が減ることは保守費用も節約でき予算削減に繋がる。またシステムを管理する人員の負担も減らすことができる。

8. 職員の PC 環境

Windows7 が 2010/1/14 にサポート終了となることをうけ、情報技術部から支給するユーザのデスクトップ PC 及びノート PC 用 OS を Windows10 に更新する作業を 2020 年 1 月 8 日に全て完了させた。また、ユーザが使用するデスクトップ PC 用大型液晶モニターへの交換は、2020 年 1 月現在約 40%が完了となった。

9. 標的型攻撃対策専用ソリューションの導入

近年増加する一方の標的型サイバー攻撃やゼロデイ攻撃への対応のために、ネット

ワークに流れるパケットを監視し、外部からの不正侵入を検知・通知する侵入検知システムを導入した。放影研にすでに導入済みのエンドポイントセキュリティ対策製品と連携が可能な製品を導入することによって、内部ネットワークの通信監視、不正な通信の検出、エンドポイントを含むすべての通信ノードの防御対策までを一括で行うことが可能になった。

10. セキュリティ診断（脆弱性診断）の実施

放影研にある外部から直接アクセス可能なサーバについて、外部業者によるセキュリティ診断を実施した。診断では攻撃者の当該サーバに対する操作の実行可否について、主に設定ミスや安全的な欠陥を中心にチェックした。報告書に記載された分析結果では全体のセキュリティレベルは「非常に高い」との診断であった。

11. 試料データの活用に向けて

2019 年度に導入予定の試料データ管理システム（LIMS）の構築において、必要となるサーバ、バックアップ装置等の機器選定を行った。また、サーバ室内に設置された機器の管理やネットワーク構築、システムの画面仕様の検討に加え、各部で保管された試料データの LIMS システムへの移行に関する作業を行っている。

12. システム技術課における来年度新規採用職員の人材確保

研究資源センターの発足に向け、放影研内に保存される多様な電子的データの永続性が保証されなければならない。そのためには、所内の情報インフラストラクチャの管理を継続的に行う必要がある。これまでと同様の管理を行うために、来年度新規採用職員として新卒予定者 2 名を確保した。